

## 平成27年度 「全国学力・学習状況調査」の結果について

京都市教育委員会

平成27年4月21日（火）に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」（以下「全国調査」）について、京都市立学校の状況をお知らせいたします。

小学校、中学校ともに3教科（国語、算数・数学、理科）全てにおいて、平均正答率が全国平均を上回る良好な結果であり、その上回り幅も昨年度から拡大しています。

### 1 調査の概要

- (1) 実施日 平成27年4月21日（火）
- (2) 対象学年 小学校第6学年，中学校第3学年
- (3) 実施教科等
  - ① 教科（国語，算数・数学，理科）に関する調査  
「主として知識に関する問題（A問題）」と「主として活用に関する問題（B問題）」  
※理科の調査は平成24年度（抽出調査）以来2回目。「知識」，「活用」に関する問題が一体的に出題された。
  - ② 児童生徒質問紙調査
  - ③ 学校質問紙調査
- (4) 実施学校数・参加人数<京都市立学校>（4月21日実施分）（\*総合支援学校含む）

	実施学校数	参加人数
小学校	168校	10,284人
中学校	72校	9,602人

全国調査は、調査結果の分析と取組の改善によって子どもたちの学習状況をより良くするためのものです。順位を競うものではなく、結果が学力の全てを示しているわけでもありません。

学力向上のためには、学校と家庭・地域での地道な取組を積み重ね、日々の規則正しい生活習慣・学習習慣を身に付けさせることが何より重要です。

京都市では、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という理念のもと、市民ぐるみ・地域ぐるみの開かれた学校づくりを推進する中で、子どもたちの学習習慣の定着や学習意欲の向上を目指します。

## 2 教科に関する調査の結果について

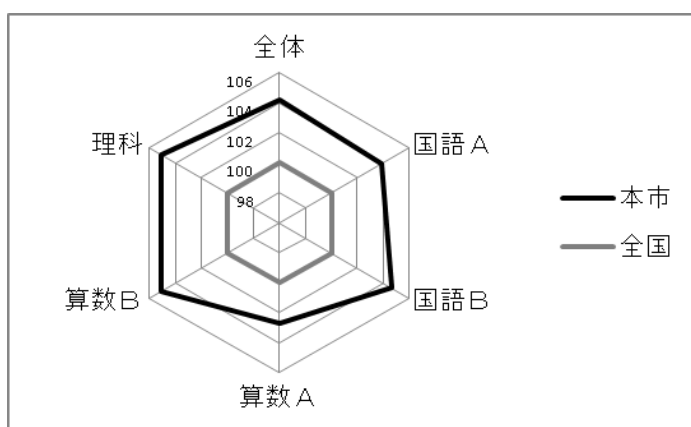
### (1) 小学校調査 (6年生)

	国語 A (知識)		国語 B (活用)		算数 A (知識)		算数 B (活用)		理科	
	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数
京都市	72.7 (+2.7)	103.9 (+3.9)	68.5 (+3.1)	104.7 (+4.7)	77.2 (+2.0)	102.7 (+2.7)	47.3 (+2.3)	105.1 (+5.1)	63.9 (+3.1)	105.1 (+5.1)
京都府	72.1	103.0	67.5	103.2	77.6	103.2	47.5	105.6	62.2	102.3
全国	70.0	100.0	65.4	100.0	75.2	100.0	45.0	100.0	60.8	100.0

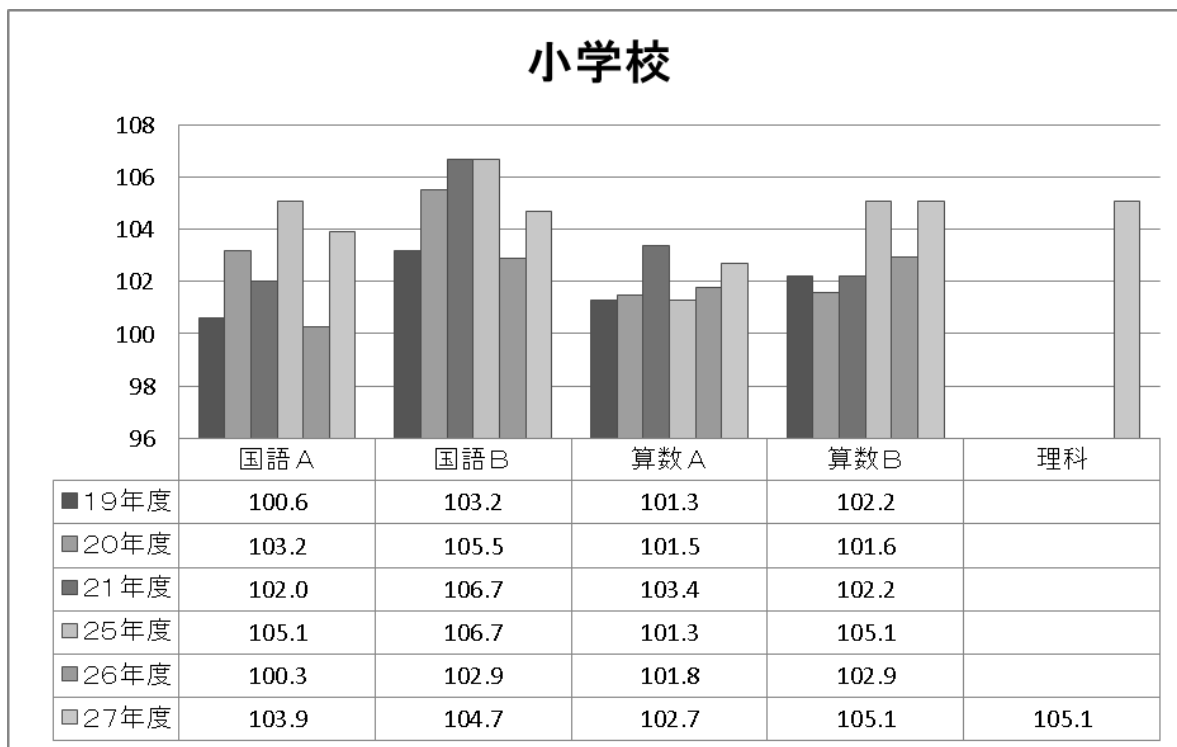
※ 指数…全国の平均正答率を 100 とした場合の京都市・京都府の平均正答率の値 (以下同じ)

※ 京都市の数値の下の ( ) 内は全国値との差

#### ◆各教科別指数



#### ◆本市の指数の経年変化



※平成 22 年度, 24 年度は抽出調査のため除く。平成 23 年度は東日本大震災のため中止。

## ◆分析・問題例

小学校の平均正答率は、全国平均をそれぞれ2.0～3.1ポイント上回っています。主として活用に関する問題が出題されたB問題では、全国平均を国語Bは3.1ポイント、算数Bは2.3ポイント上回っています。また、無解答率が全教科で全国平均と比べて低いことも特徴です。

### <国語>

- 平均正答率は、全国平均を国語Aで2.7ポイント、国語Bで3.1ポイント上回っています。
- 特に、A問題の「話す・聞く能力に関する問題」やB問題の「目的に応じた文章を書く問題」「文章を音読する際の工夫の仕方を問う問題」の正答率が高くなっています。
- 一方で、漢字を書く問題など、基礎的・基本的な知識・技能の定着状況（A問題）に課題が見られます。

#### 全国平均と比べて特に正答率が高かった問題

- A問題 ② 一文の主語として適切なものを選択する問題  
正答率 **60.1%**（全国平均 **53.1%**） 無解答率 0.3%（全国平均 0.6%）
- A問題 ③ 話の内容に対する聞き方の工夫ができるかどうかをみる問題  
正答率 **59.2%**（全国平均 **53.0%**） 無解答率 0.3%（全国平均 0.5%）
- B問題 ③ 二 登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読できるかどうかをみる問題  
正答率 **72.1%**（全国平均 **66.6%**） 無解答率 10.4%（全国平均 15.1%）

#### 全国平均と比べて正答率が低かった問題

- A問題 ① 二2 漢字を書く問題（鳥のすを観察する）  
正答率 **75.9%**（全国平均 **76.5%**） 無解答率 5.5%（全国平均 5.7%）

### <算数>

- 平均正答率は、全国平均を算数Aで2.0ポイント、算数Bで2.3ポイント上回っています。
- 特に、B問題の「数学的な考え方」「記述式問題」での正答率が高くなっています。
- 一方で、計算の答えを確かめること（A問題）や作図の方法に用いられる図形の約束や性質の理解（B問題）に課題が見られます。

#### 全国平均と比べて特に正答率が高かった問題

- A問題 ② (2) 末尾の位が揃っていない小数の引き算をする問題  
正答率 **75.4%**（全国平均 **69.5%**） 無解答率 0.6%（全国平均 0.7%）
- B問題 ② (2) 20%増量した商品の量が480m<sup>1</sup>であるときの増量前の量を求める問題  
正答率 **18.0%**（全国平均 **13.1%**） 無解答率 3.6%（全国平均 4.5%）

#### 全国平均と比べて正答率が低かった問題

- A問題 ① (3) 小数の足し算の結果を、引き算を用いて確かめる問題  
正答率 **81.6%**（全国平均 **82.0%**） 無解答率 1.9%（全国平均 2.0%）
- B問題 ① (2) 三角定規で平行四辺形を作図する際に利用する、平行四辺形の特徴を答える問題  
正答率 **54.3%**（全国平均 **54.6%**） 無解答率 0.7%（全国平均 1.0%）

## <理科>

- 平均正答率は、全国平均を 3.1 ポイント上回っています。
- 特に、観察や実験を通して知識や技能について問う問題での正答率が高くなっています。
- 一方で、観察・実験の結果を見直し、改善を図っていくことに課題が見られます。

### 全国平均と比べて特に正答率が高かった問題

- 問題 2 (1) メダカの雌と雄を見分けるために観察する部分を選ぶ問題  
正答率 **83.5%** (全国平均 **78.0%**) 無解答率 0.1% (全国平均 0.3%)
- 問題 2 (4) 顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ問題  
正答率 **46.9%** (全国平均 **37.9%**) 無解答率 0.4% (全国平均 1.0%)
- 問題 4 (5) 水が水蒸気になる現象について、その名称を書く問題  
正答率 **70.3%** (全国平均 **58.5%**) 無解答率 10.4% (全国平均 15.2%)

### 全国平均と比べて正答率が低かった問題

- 問題 1 (5) イ 電磁石の働きを利用した振り子を試作した結果、予想どおりに動かない原因と改善策を考える問題  
正答率 **65.7%** (全国平均 **66.2%**) 無解答率 0.6% (全国平均 1.0%)

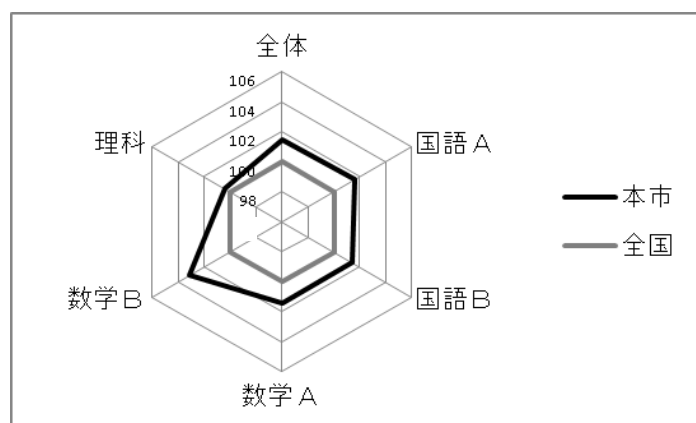
## (2) 中学校調査 (3年生)

	国語 A (知識)		国語 B (活用)		数学 A (知識)		数学 B (活用)		理科	
	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数
京都市	<b>77.0</b> (+1.2)	<b>101.6</b> (+1.6)	<b>66.7</b> (+0.9)	<b>101.4</b> (+1.4)	<b>65.3</b> (+0.9)	<b>101.4</b> (+1.4)	<b>42.9</b> (+1.3)	<b>103.1</b> (+3.1)	<b>53.2</b> (+0.2)	<b>100.4</b> (+0.4)
京都府	76.7	101.2	66.5	101.1	65.3	101.4	42.5	102.2	52.6	99.2
全国	75.8	100.0	65.8	100.0	64.4	100.0	41.6	100.0	53.0	100.0

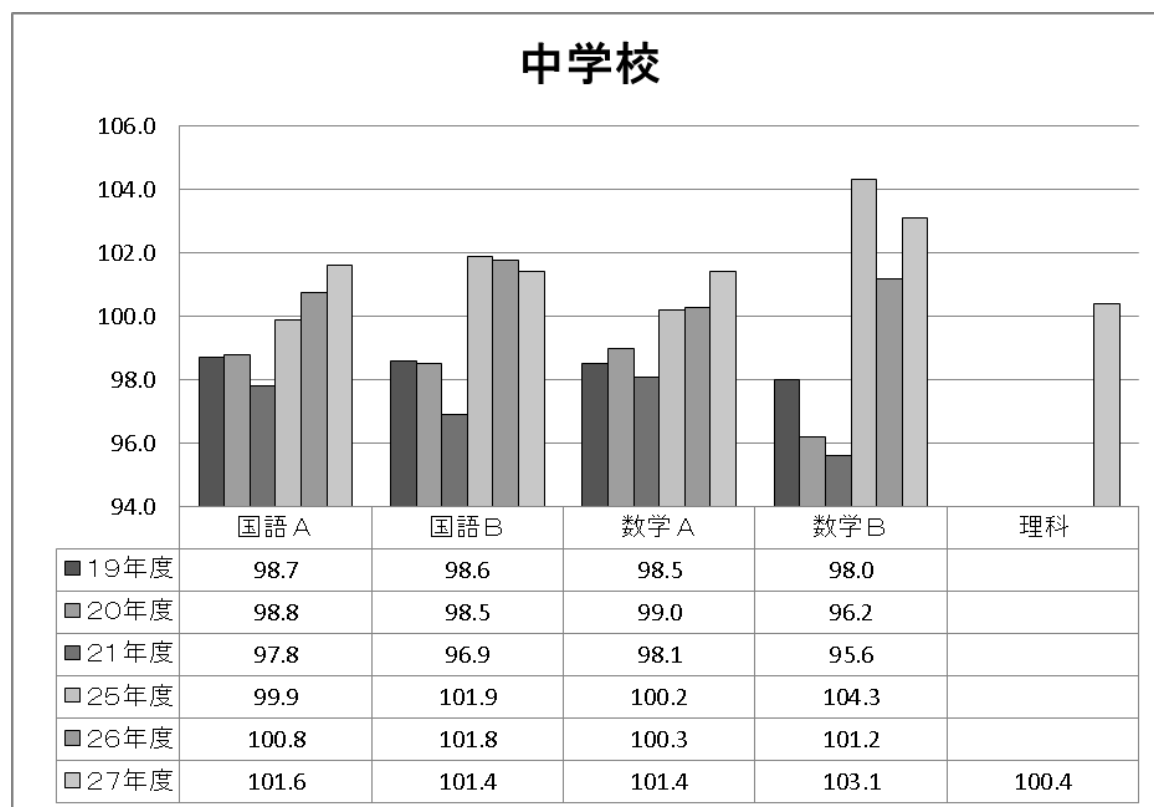
※ 指数…全国の平均正答率を 100 とした場合の京都市・京都府の平均正答率の値 (以下同じ)

※ 京都市の数値の下の ( ) 内は全国値との差

### ◆各教科別指数



### ◆本市の指数の経年変化



※平成 22 年度, 24 年度は抽出調査のため除く。平成 23 年度は東日本大震災のため中止。

## ◆分析・問題例

中学校の平均正答率は、全国平均をそれぞれ0.2～1.3ポイント上回っています。主として活用に関する問題が出題されたB問題では、全国平均を国語Bは0.9ポイント、数学Bは1.3ポイント上回っています。また、無解答率が全教科で全国平均と比べて低いことも特徴です。

### <国語>

- 平均正答率は、全国平均を国語Aで1.2ポイント、国語Bで0.9ポイント上回っています。
- 特にA問題、B問題ともに「話す・聞く能力に関する問題」の正答率が高くなっています。
- 一方で、表現技法の識別や漢字など、言語に関する知識の定着や、知識を活用して文章を書くことに課題が見られます。

#### 全国平均と比べて特に正答率が高かった問題

- B問題 ① 一 状況に応じて、資料を活用して話すことができるかをみる問題  
正答率 **75.6%** (国平均 **73.2%**) 無解答率 0.1% (全国平均 0.2%)

#### 全国平均と比べて正答率が低かった問題

- A問題 ③ 一 文章に用いられている表現の技法を答える問題  
正答率 **56.9%** (全国平均 **58.3%**) 無解答率 0.2% (全国平均 0.4%)
- A問題 ⑨ 六 手紙の書き方を理解して書くことができるかをみる問題  
正答率 **56.8%** (全国平均 **58.2%**) 無解答率 0.7% (全国平均 1.2%)

### <数学>

- 平均正答率は、全国平均を数学Aで0.9ポイント、数学Bで1.3ポイント上回っています。
- 特に、「記述式問題」の無解答率が低いことが特徴であり、最後まで諦めず解答しようとする生徒が増えていると考えられます。
- 一方で、見通しを持って作図することや、与えられた情報をもとに、具体的な物事を数学的に解釈していくことに課題が見られます。

#### 全国平均と比べて特に正答率が高かった問題

- A問題 ③ (3) 具体的な事象の数量関係をとらえ、連立二元一次方程式を作る問題  
正答率 **50.2%** (全国平均 **44.9%**) 無解答率 0.6% (全国平均 0.9%)
- A問題 ⑤ (4) 与えられた式で体積が求められる立体を全て選ぶ問題  
正答率 **60.2%** (全国平均 **56.4%**) 無解答率 1.0% (全国平均 1.4%)
- B問題 ④ (2) 正方形を平行四辺形に変えても成り立つ事柄を証明する問題  
正答率 **53.7%** (全国平均 **49.6%**) 無解答率 14.4% (全国平均 18.6%)

#### 全国平均と比べて正答率が低かった問題

- A問題 ④ (2) 三角形を矢印の方向に4cm平行移動した図形をかく問題  
正答率 **51.8%** (全国平均 **54.5%**) 無解答率 1.7% (全国平均 2.2%)
- B問題 ① (2) プロジェクターでの投影画面をスクリーン内でできるだけ大きく映し出す投影距離を選択する問題  
正答率 **33.9%** (全国平均 **35.1%**) 無解答率 0.8% (全国平均 0.9%)

## <理科>

- 平均正答率は、全国平均を 0.2 ポイント上回っています。
- 特に、知識・技能を活用する問題での正答率が高くなっています。
- 一方で、化学式や天気図の読み方等、自然現象についての基礎的な知識や、実験の結果を分析して規則性を見出すこと、設定した課題に対する適切な考察をすることなどに課題が見られます。

### 全国平均と比べて特に正答率が高かった問題

- 問題 ③ (2) 上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる装置を選ぶ問題  
正答率 **44.1%** (全国平均 **39.0%**) 無解答率 0.6% (全国平均 0.8%)
- 問題 ⑤ (2) 電磁石を動かさず、スイッチを入切すると、電流が得られる理由を「磁界」という言葉を使って説明する問題  
正答率 **62.0%** (全国平均 **56.8%**) 無解答率 24.6% (全国平均 30.7%)

### 全国平均と比べて正答率が低かった問題

- 問題 ① (1) 塩化ナトリウムの化学式を選ぶ問題  
正答率 **73.8%** (全国平均 **79.6%**) 無解答率 0.2% (全国平均 0.3%)
- 問題 ② (1)(2) 天気図から風力や風向を読み取り、その風向きを示す風向計を選ぶ問題  
(1) 正答率 **75.4%** (全国平均 **77.9%**) 無解答率 9.1% (全国平均 9.0%)  
(2) 正答率 **45.2%** (全国平均 **48.6%**) 無解答率 0.3% (全国平均 0.5%)

### 3 児童生徒質問紙調査に関する結果について

児童生徒質問紙調査では、京都市立学校の児童生徒の学校生活・社会生活での意識の変化や、学習に対する関心・意欲・態度の向上が見られる結果となりました。

ここでは、「学習時間・家庭学習」、「読書」、「自尊感情・規範意識」「ゲーム、携帯電話・スマートフォンの利用」「地域・社会への関心、自然体験」など、学力と相関関係がある項目をあげています。

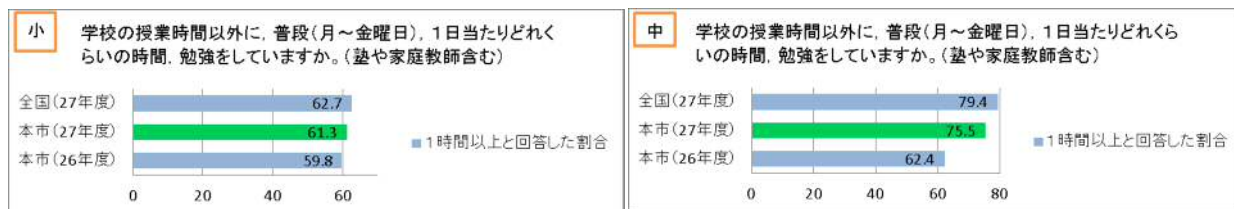
確かな学力の定着・向上のためには、家庭学習をはじめとする自学自習の学習サイクルの確立をはじめ、日々の生活において、子どもたちの規範意識や自尊感情を高め、地域や社会に関心を持たせる取組など、家庭・地域・学校における継続的な取組が重要であることが読み取れる結果となっています。

#### (1) 学習時間・家庭学習

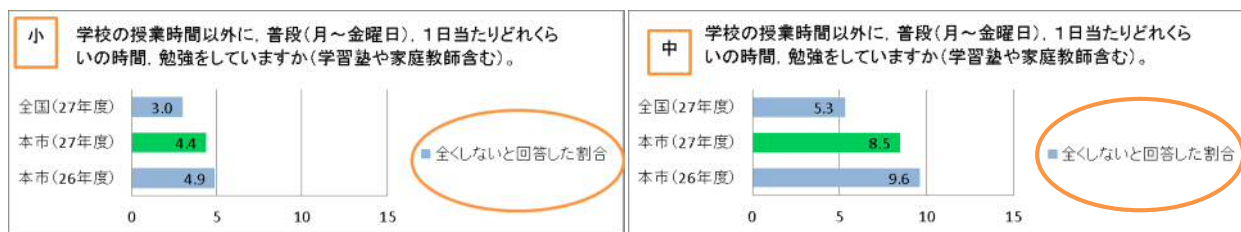
小中学校ともに昨年度より改善したものの、授業以外で「1日1時間以上勉強する」児童生徒の割合は、全国平均を下回っており、逆に「全くしない」と答えた児童生徒の割合は、全国平均よりも高くなっています。

全国的な傾向ですが、小中学校ともに、「宿題や家庭学習を計画的に、しっかりと取り組めている児童生徒ほど、正答率が高い」傾向にあり、京都市でも、その傾向は顕著に表れています。

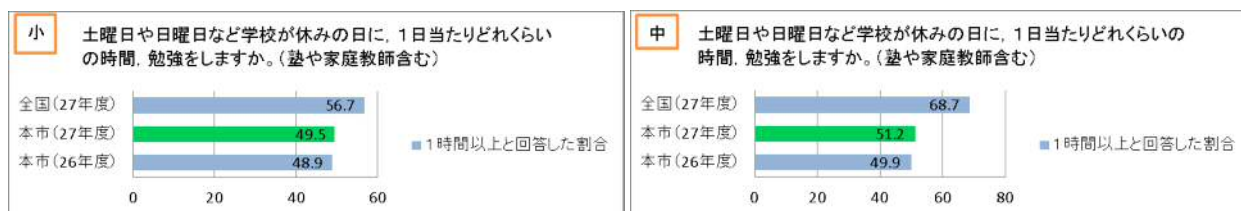
#### ○平日の学習時間（1時間以上） \*単位（%）以下同じ



#### ○平日の学習時間（全くしない）

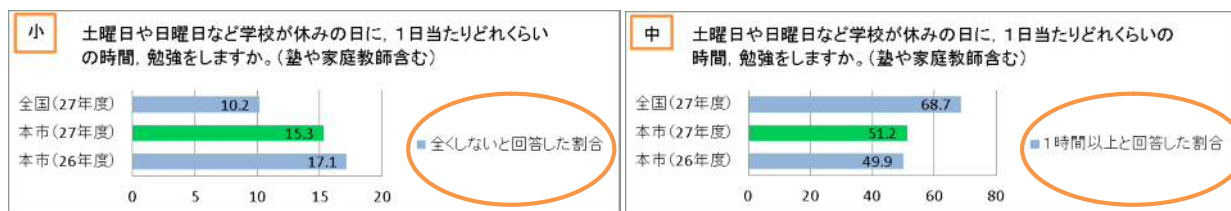


#### ○休日の学習時間（1時間以上）





## ○休日の学習時間（全くしない）



## 【京都市立小学校 クロス集計】

\*その他・無回答を除くため、児童生徒数の割合の合計は必ずしも100%とはならない(以下同じ)

平日の学習時間 (選択肢)	児童数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
3時間以上	17.1	82.4	79.0	86.5	61.5	73.2
2時間以上, 3時間未満	15.0	75.9	71.9	79.5	49.5	65.0
1時間以上, 2時間未満	29.2	72.5	69.2	77.4	46.4	63.8
30分以上, 1時間未満	23.5	69.1	64.6	74.6	43.2	61.3
30分より少ない	10.6	66.3	60.3	70.6	39.5	58.3
全くしない	4.4	60.5	54.0	64.2	33.3	53.1

休日の学習時間 (選択肢)	児童数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
4時間以上	11.0	86.6	83.3	90.3	68.5	77.7
3時間以上, 4時間未満	5.4	77.6	73.3	82.6	53.5	68.5
2時間以上, 3時間未満	9.5	75.0	72.1	80.2	50.5	65.9
1時間以上, 2時間未満	23.6	73.3	69.8	77.4	46.5	63.4
1時間より少ない	35.1	70.0	65.8	74.8	43.6	61.8
全くしない	15.3	65.1	58.5	69.9	38.1	56.9

## 【京都市立中学校 クロス集計】

平日の学習時間 (選択肢)	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
3時間以上	12.5	80.0	69.4	71.4	48.3	58.1
2時間以上, 3時間未満	22.1	79.0	68.8	69.4	46.3	55.8
1時間以上, 2時間未満	28.9	77.6	67.5	66.2	43.4	53.3
30分以上, 1時間未満	15.9	76.8	66.7	64.0	41.7	53.0
30分より少ない	12.0	74.6	65.1	60.2	39.6	50.9
全くしない	8.5	69.2	56.7	53.4	32.5	43.0

休日の学習時間 (選択肢)	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
4時間以上	4.7	83.1	71.2	75.4	54.8	63.0
3時間以上, 4時間未満	8.3	80.5	70.2	72.1	50.9	59.3
2時間以上, 3時間未満	15.5	79.8	70.3	70.6	48.1	58.2
1時間以上, 2時間未満	22.7	78.5	68.7	67.6	45.1	55.0
1時間より少ない	28.2	76.7	66.5	63.5	40.8	51.9
全くしない	20.5	70.8	59.6	56.5	34.0	44.6

## ○家での計画的な学習



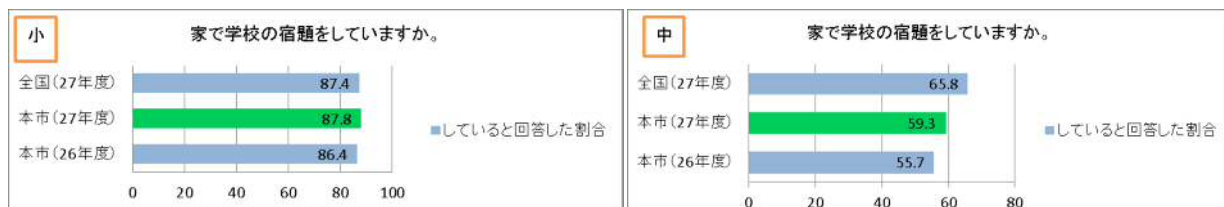
【京都市立小学校 クロス集計】

家で自分で計画を立てて勉強しているか (選択肢)	児童数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
している	23.5	77.9	74.5	82.2	54.5	68.6
どちらかといえばしている	35.2	74.9	71.7	79.1	49.5	66.1
あまりしていない	31.2	69.7	64.9	74.6	43.3	61.0
全くしていない	10.0	62.2	55.2	68.1	36.0	64.6

【京都市立中学校 クロス集計】

家で自分で計画を立てて勉強しているか (選択肢)	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
している	13.7	80.5	69.9	71.2	49.5	58.9
どちらかといえばしている	31.3	79.0	68.6	68.2	46.0	56.2
あまりしていない	37.5	76.4	66.5	64.2	41.3	51.9
全くしていない	17.5	72.0	61.0	58.3	36.2	46.2

○宿題



【京都市立小学校 クロス集計】

家で学校の宿題をしているか (選択肢)	児童数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
している	87.8	74.4	71.0	78.8	49.0	65.4
どちらかといえばしている	9.3	62.3	53.3	68.1	37.1	55.1
あまりしていない	2.2	54.0	44.2	61.1	31.5	50.2
全くしていない	0.7	53.0	41.3	59.9	28.1	46.2

【京都市立中学校 クロス集計】

家で学校の宿題をしているか (選択肢)	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
している	59.3	79.9	69.6	68.9	46.7	57.2
どちらかといえばしている	28.7	74.6	64.4	62.3	39.2	49.3
あまりしていない	8.6	70.4	60.4	57.4	35.7	45.2
全くしていない	3.2	63.1	50.2	48.7	28.5	37.5

(2) 読書

「読書好き」の児童生徒は、昨年度と比べて小学校で増加し、中学校ではやや減少しています。また、学力との相関関係も見られ、**読書は学力の基盤となる読解力の育成に影響があるものと考えられます。**

1日当たりの読書時間の長さや正答率についても一定関連が見られ、小中学校ともに、「**平日に読書を全くしないという児童生徒の正答率は、読書をする児童生徒と比べて低い**」という結果になりました。

## ○読書は好きか



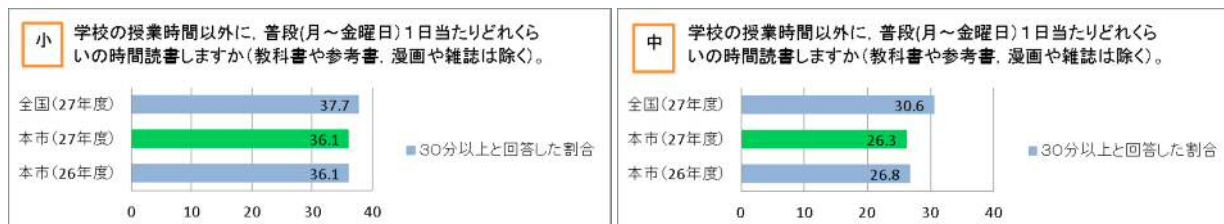
### 【京都市立小学校 クロス集計】

読書は好きか (選択肢)	児童数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
当てはまる	47.8	77.3	74.5	80.1	51.4	68.4
どちらかといえば当てはまる	23.5	70.9	66.4	76.1	45.4	62.3
どちらかといえば当てはまらない	16.1	68.7	63.3	75.6	44.3	60.3
当てはまらない	12.4	64.2	57.1	71.4	39.6	54.9

### 【京都市立中学校 クロス集計】

読書は好きか (選択肢)	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
当てはまる	39.2	82.2	72.0	69.5	48.7	59.2
どちらかといえば当てはまる	24.5	77.7	67.5	65.7	43.3	53.6
どちらかといえば当てはまらない	18.1	74.1	64.1	63.7	40.1	50.0
当てはまらない	17.9	67.8	56.6	57.7	33.2	43.0

## ○読書時間



### 【京都市立小学校 クロス集計】

1日当たりの読書時間 (選択肢)	児童数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
2時間以上	7.8	76.8	74.2	79.3	51.4	68.1
1時間以上, 2時間未満	9.7	76.6	73.3	79.6	50.5	67.7
30分以上, 1時間未満	18.6	76.4	73.4	79.9	50.8	67.4
10分以上, 30分未満	26.9	73.8	69.9	78.5	48.7	64.6
10分より少ない	16.7	70.0	65.8	75.6	45.3	61.4
全くしない	20.1	66.6	60.2	72.9	41.0	58.5

### 【京都市立中学校 クロス集計】

1日当たりの読書時間 (選択肢)	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
2時間以上	5.8	76.9	66.6	62.7	41.7	52.9
1時間以上, 2時間未満	7.1	79.5	68.4	66.3	45.1	55.2
30分以上, 1時間未満	13.4	79.9	68.9	67.4	45.6	56.4
10分以上, 30分未満	22.9	80.9	71.1	70.1	48.5	58.4
10分より少ない	14.9	76.4	65.8	65.3	42.3	52.8
全くしない	35.8	73.2	63.1	61.8	38.7	48.6

### (3) 自尊感情, 規範意識

「自分にはよいところがあると思う」「学校のきまりを守っている」という質問に当てはまると回答している児童生徒の割合は増加しています。また、「**自尊感情や規範意識が高い子どもほど正答率が高い**」という傾向を示しており、学力との相関関係があることがわかります。

#### ○自尊感情



#### 【京都市立小学校 クロス集計】

自分には、よいところがあると思うか (選択肢)	児童数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
当てはまる	35.0	74.1	69.8	79.0	49.2	65.6
どちらかといえば当てはまる	40.9	73.5	70.0	77.8	48.1	64.5
どちらかといえば当てはまらない	17.3	70.4	65.7	74.9	44.4	61.5
当てはまらない	6.6	67.1	60.8	71.4	40.9	58.3

#### 【京都市立中学校 クロス集計】

自分には、よいところがあると思うか (選択肢)	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
当てはまる	26.4	76.6	66.0	65.7	43.0	53.4
どちらかといえば当てはまる	43.4	78.3	68.7	67.2	45.2	55.2
どちらかといえば当てはまらない	21.7	76.6	66.1	64.2	41.9	51.9
当てはまらない	8.4	72.4	60.1	58.0	34.9	46.3

#### ○規範意識



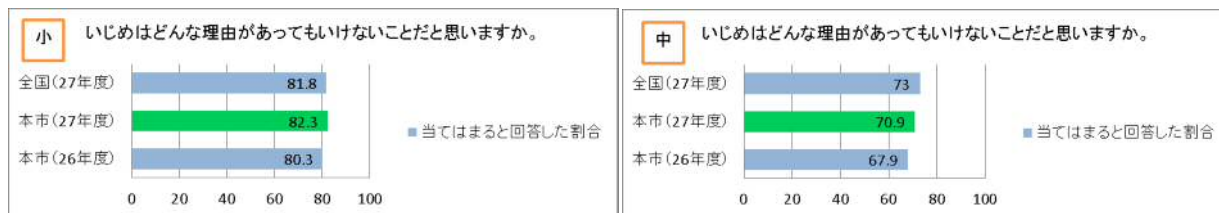
#### 【京都市立小学校 クロス集計】

学校のきまりを守っている (選択肢)	児童数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
当てはまる	39.9	74.3	71.0	78.2	48.8	65.0
どちらかといえば当てはまる	50.7	72.9	68.8	77.8	47.7	64.5
どちらかといえば当てはまらない	7.9	65.8	58.4	71.4	40.2	57.6
当てはまらない	1.4	60.0	48.9	64.6	35.1	49.8

#### 【京都市立中学校 クロス集計】

学校の規則を守っている (選択肢)	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
当てはまる	51.5	79.0	68.7	68.2	45.9	56.3
どちらかといえば当てはまる	41.6	76.3	66.3	64.1	41.7	51.7
どちらかといえば当てはまらない	5.5	67.8	55.5	54.0	31.0	41.1
当てはまらない	1.3	59.8	47.6	44.1	22.8	33.9

## ○規範意識（いじめ）



### 【京都市立小学校 クロス集計】

いじめはどんな理由があってもいけない (選択肢)	児童数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
当てはまる	82.3	73.4	69.6	77.8	48.0	64.5
どちらかといえば当てはまる	14.2	70.5	65.3	76.1	45.2	62.2
どちらかといえば当てはまらない	2.3	66.6	58.3	72.3	40.7	58.5
当てはまらない	1.1	64.7	58.0	67.7	40.2	56.5

### 【京都市立中学校 クロス集計】

いじめはどんな理由があってもいけない (選択肢)	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
当てはまる	70.9	77.1	66.9	65.2	42.9	53.2
どちらかといえば当てはまる	22.4	77.4	66.8	66.4	43.9	53.8
どちらかといえば当てはまらない	4.8	76.2	64.7	65.1	42.5	52.7
当てはまらない	1.8	70.9	60.0	61.3	39.1	48.2

## (4) ゲーム、携帯電話・スマートフォンの利用

平日にテレビゲーム（携帯ゲーム含む）を「3時間以上する」児童生徒の割合は、小学校では増加傾向にあり、中学校では減少しているものの依然として全国平均と比べて高くなっています。1日当たりのゲームの時間の長さとは正答率については相関関係が見られ、「**ゲームの時間が短いほど、正答率が高い**」という結果となっています。

また、携帯電話・スマートフォンの利用時間（ゲームを除く）についても、「3時間以上する」児童生徒が全国平均と比べて高くなっています。1日当たりの利用時間と正答率については相関関係が見られ、「**携帯電話・スマートフォンの利用時間が短いほど、正答率が高い**」という結果となっています。

## ○ゲーム時間



### 【京都市立小学校 クロス集計】

1日当たりのゲーム時間 (選択肢)	児童数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
4時間以上	10.2	62.0	54.5	67.4	35.8	54.2
3時間以上、4時間未満	7.9	66.6	61.6	72.1	40.4	58.1
2時間以上、3時間未満	13.3	69.0	63.3	73.9	42.6	60.5
1時間以上、2時間未満	22.8	72.5	69.1	77.8	47.2	64.1
1時間未満	31.3	76.6	73.5	80.5	51.6	67.0
全くしない	14.4	79.1	75.7	82.5	55.2	70.3



【京都市立中学校 クロス集計】

1日当たりのゲーム時間 (選択肢)	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
4時間以上	13.5	69.2	58.6	54.5	31.4	42.1
3時間以上, 4時間未満	10.6	72.5	62.0	60.6	36.7	48.1
2時間以上, 3時間未満	15.3	74.7	63.8	63.2	40.2	50.5
1時間以上, 2時間未満	19.9	77.8	67.7	67.3	45.1	54.9
1時間未満	24.9	80.9	70.6	70.2	48.8	58.7
全くしない	15.6	81.8	72.0	69.9	48.3	58.2

○携帯電話やスマートフォンでの通話やメール, インターネットの利用時間



【京都市立小学校 クロス集計】

1日当たりの携帯, スマートフォンの利用 時間(選択肢)	児童数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
4時間以上	3.7	61.2	55.0	65.3	34.7	51.6
3時間以上, 4時間未満	3.2	63.7	57.9	67.8	37.7	54.9
2時間以上, 3時間未満	4.3	66.6	60.6	70.2	39.6	57.0
1時間以上, 2時間未満	7.3	68.3	62.6	72.6	42.3	58.9
30分以上, 1時間未満	11.1	71.5	67.5	75.8	44.6	61.6
30分より少ない	32.3	75.1	71.2	79.6	50.7	66.1
携帯電話やスマホを持っていない	38.0	74.5	71.0	79.5	49.3	66.5

【京都市立中学校 クロス集計】

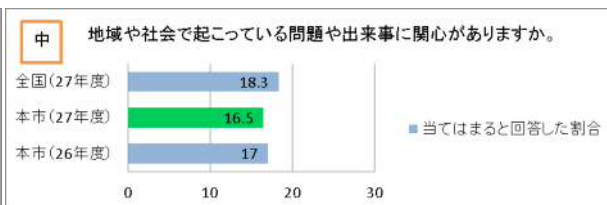
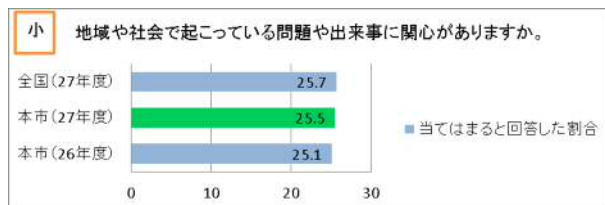
1日当たりの携帯, スマートフォンの利用 時間(選択肢)	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
4時間以上	13.6	70.7	60.4	54.3	31.3	42.2
3時間以上, 4時間未満	9.9	74.2	64.1	59.9	36.7	47.7
2時間以上, 3時間未満	13.8	75.9	65.2	63.2	40.2	50.4
1時間以上, 2時間未満	15.8	77.1	66.6	65.6	43.3	53.5
30分以上, 1時間未満	14.1	78.8	69.0	69.8	47.1	57.1
30分より少ない	16.2	80.1	69.8	70.2	49.0	58.7
携帯電話やスマホを持っていない	16.3	80.3	69.8	70.9	49.4	59.3

(5) 地域・社会への関心, 自然体験

全国的な傾向として, 小学生から中学生へと進学するにしたがって, 地域・社会の出来事への関心が減少しており, 本市でも同様の傾向にあります。

一方で, 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と答えた児童生徒の正答率は他の児童生徒より高く, 概ね学力との相関関係が見られます。また, 「自然の中での遊びや自然観察をしたことがある」と答えた児童生徒の正答率も他の児童生徒より高いという結果となりました。学校での学びとともに, 家庭での生活や地域との関わり等を通して, 子どもたちが様々な体験を積み重ねていくことの重要性が伺えます。

## ○地域・社会への関心



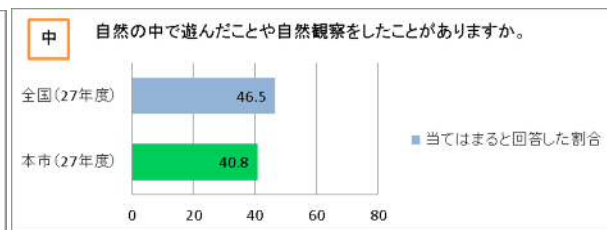
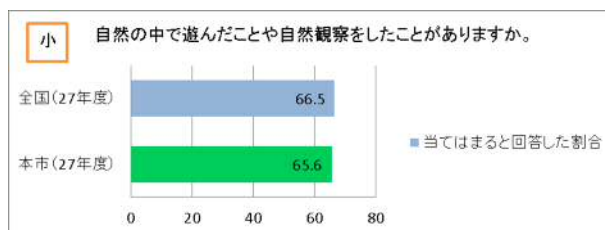
### 【京都市立小学校 クロス集計】

地域や社会の問題や出来事に関心がある(選択肢)	児童数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
当てはまる	25.5	77.3	73.7	81.3	53.0	69.4
どちらかといえば当てはまる	36.3	74.0	70.9	78.6	48.7	65.4
どちらかといえば当てはまらない	27.4	70.1	65.3	75.1	43.9	60.5
当てはまらない	10.8	64.4	57.0	69.2	38.2	55.1

### 【京都市立中学校 クロス集計】

地域や社会の問題や出来事に関心がある(選択肢)	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
当てはまる	16.5	79.7	69.1	68.2	47.3	57.3
どちらかといえば当てはまる	37.2	79.8	69.6	68.9	46.9	57.1
どちらかといえば当てはまらない	31.2	75.6	65.6	63.9	40.8	51.1
当てはまらない	15.1	70.0	58.9	56.7	33.1	43.5

## ○自然体験



### 【京都市立小学校 クロス集計】

自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある(選択肢)	児童数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
当てはまる	65.6	73.9	70.0	78.4	48.6	65.5
どちらかといえば当てはまる	20.7	71.3	67.4	76.5	46.0	62.1
どちらかといえば当てはまらない	9.6	71.5	66.5	75.1	46.1	61.7
当てはまらない	3.4	65.8	58.3	70.3	39.9	55.1

### 【京都市立中学校 クロス集計】

自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある(選択肢)	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
当てはまる	40.8	79.5	69.6	68.2	46.3	57.1
どちらかといえば当てはまる	31.5	77.0	66.6	65.4	42.9	52.9
どちらかといえば当てはまらない	18.0	75.1	64.6	63.4	40.7	50.3
当てはまらない	9.3	69.7	58.3	56.8	33.6	43.1

#### 4 京都市の学力向上の取組

本市では、子どもたちが身につけておくべき「確かな学力」を、基礎的・基本的な知識・技能はもとより、「習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」、さらに「学ぼうとする意欲」「生涯にわたって学び続ける力」と定義しています。そして、「確かな学力」とともに、「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成を目指し、熱意あふれる教職員の実践はもとより、保護者・地域の皆様のご協力のもと、一人一人の学力を最大限に伸ばす取組を展開しています。

##### (1) 小中一貫教育の推進と、授業等での指導の工夫・改善

本市では、平成23年度から全ての中学校区で義務教育9年間の学びと育ちを見通した「小中一貫教育」を進めています。

各中学校区では、「義務教育9年間で目指す子ども像の共有」や、「9年間での段階的な目標の設定」、「小中合同での研究授業や学力調査結果の分析会の実施」、「小中一貫したカリキュラムの編成」など、教育内容の連続性を意識した指導の工夫・改善を図っています。

また、各校における日々の指導においても、授業での「学習のめあて」の子どもたちへの提示と「ふりかえり」の実施や、子どもたちの主体性や学習意欲を引き出す、学び合いのある授業づくりの工夫、朝や放課後などの時間を活用した計画的な補充学習の実施、授業改善のポイントなどをまとめた教職員向け冊子の活用など、子どもたち一人一人の状況を踏まえた、様々な指導改善の取組を進めています。

##### (2) 京都市小中一貫学習支援プログラム

本市では、小中学校の接続を意識して、宿題を含む予習や復習、既習事項が定着したかどうかをみる確認テストの実施などを通して、自学自習の学習習慣（計画→事前学習→確認テスト→事後学習）を身に付けるため「ジョイントプログラム」、「学習確認プログラム」を実施しています。確認テストを通して、児童生徒がつまずきやすいポイントや学力の定着に課題が多い単元・領域がデータとして継続的に蓄積されていきますので、全国調査の結果とともに、より多面的な結果分析を可能とするために、平成27年度から新たに導入した分析システムを活用するなど、教職員間で情報を共有し授業改善に活かしています。子どもたちにとって、自らの達成度や課題が分かり、全市の中での学力状況を捉えて、進路実現に活かしています。

名称（開始年度）	学年	実施回数（合計）		実施教科等
プレジョイントプログラム （平成23年度～）	小3	1	2	国語，社会，算数，理科
	小4	1		
ジョイントプログラム （平成20年度～）	小5	2	5	国語，社会，算数，理科 *5回中3回は国・算で実施 *小6の最終回は中学入学直後に確認テスト実施
	小6	3		
学習確認プログラム （平成18年度～）	中1	1	6	国語，社会，数学，理科，英語
	中2	3		
	中3	2		



### (3) 保護者・地域との連携による家庭学習への支援

本市では、学校運営協議会（平成27年10月末現在230校に設置。小学校は全校に設置）をはじめ、地域の方々・保護者・学生ボランティアの参画のもと、「土曜学習」※<sup>1</sup>や「放課後まなび教室」※<sup>2</sup>、「放課後・学力ステップアップ事業」※<sup>3</sup>などの取組により、家庭学習や自学自習の習慣の確立や基礎学力の定着に努めています。

教室の中での学習だけではなく、自然体験や伝統文化体験などの体験学習、防災・安全の取組など、学校運営協議会や地域が主催する行事、「みやこ子ども土曜塾」※<sup>4</sup>等の取組と学校が連携し、子どもたちが地域の方と交流する活動も大切にしています。子どもたちにとって、地域の方々に支えられているという意識や、地域の一員として主体的に関わろうとする意識を育む貴重な機会となっており、学力の基盤を形成する学ぶ意欲や態度を育み、自尊感情や自己肯定感の向上につながっていくものと期待しています。

その他にも、読書ノートを活用した「本」大好きな子どもを育成する取組や規範意識を育むための取組など、一つ一つの地道な取組がつながり、京都市の児童生徒の学力が少しずつ着実に伸びている一つの要因となっているといえます。

教育委員会では、冊子「自学自習のすすめ」において、学力向上を図るうえで大切な家庭学習のヒントをわかりやすくまとめ、小中学校入学時に児童生徒へ配布しています。子どもたちと一緒に、是非ご一読ください。

※1 「土曜学習」…平成23年度から全ての小中学校で、土日祝日などの学校休業日に、学校運営協議会や保護者、地域、学生等の方々の支援をいただき、学習活動や体験活動を行っています。

※2 「放課後まなび教室」…平成21年度から全ての小学校区で、学校運営協議会や保護者、地域、学生等の方々の参画を得ながら、放課後の子どもたちに学習の習慣づけを図る『自主的な学びの場』と『安心・安全な居場所』として、運営しています。

※3 「放課後・学力ステップアップ事業」…平成27年度から主に中学生を対象に、家庭の経済状況に関わらず、全ての子どもたちが可能性を最大限に伸ばし、自らの未来を切り拓いていけるよう、放課後等に基礎学力の定着を図るための学習支援を行っています。

※4 「みやこ子ども土曜塾」…平成16年度から、土日祝日や夏休みなどの学校休業日に企業や大学、NPO等が実施する伝統文化・自然活動等の体験活動をホームページ及び情報誌「G o G o 土曜塾」で発信し、京都ならではの多様な資源を生かしたさまざまな学びの場についての情報を提供しています。

## 5 保護者・市民の皆様へ

子どもたちの学力は、学校と家庭・地域での学習や生活を通して、地道な取組を重ねていくことで向上していくものであり、その基本は日々の学習習慣・生活習慣を身に付けることにあります。全国調査の結果は、子どもたちの学力の全てを表すものではありませんが、子どもたちが知識や技能をしっかりと習得できているか、また、それら活用する力を身につけているか等を示す、重要な指標です。

平成27年度の調査結果は小学校及び中学校の全教科の平均正答率が全国平均を上回る良好な結果であり、その上回り幅も昨年度から拡大しています。また、教科の学力だけでなく、子どもたちの学習に向かう意識や態度も向上し、無解答率も低く、最後まであきらめず、粘り強く取り組んだことが顕著に表れています。

また、「家庭での学習の時間が長い」、「読書が好き」、「規範意識・自尊感情が高い」、「携帯電話・スマートフォンの利用時間が短い」と回答する児童生徒ほど、正答率は高いという結果が明確に表れています。

「小中一貫教育」や「授業等での指導の工夫・改善」、「京都市小中一貫学習支援プログラム」など、本市の学力向上に向けた主な取組も紹介しましたが、子どもたちの頑張りはもちろんのこと、ご家庭での子どもたちへ積極的な関わりや声かけ等とともに、学校運営協議会やPTAをはじめ、「子どもを共に育む京都市民憲章」の具体的実践に取り組んでいただいている多くの方々のご協力のもと、市民ぐるみ・地域ぐるみで子どもたちの学習環境を整え、「生きる力」の礎となる「学ぶ喜び」や「生活の知恵」を授けていただいていることが、今回の結果につながったものと確信しています。

この調査結果を子どもたちの学力向上に活かすために重要なことは、子どもたちが自らの学習や生活を振り返る機会として、できなかった問題の復習や、結果を踏まえた次の目標設定を行い、今後の学習や生活の充実につなげることです。また、学校にとっては、対象学年だけでなく、学校全体のこれまでの取組の成果と課題をまとめ、「学校だより」等でわかりやすく公表を行い、教職員はもとより、保護者・地域の皆様と情報を共有して指導方法の工夫や家庭学習の充実等に活かすことです。

この度お示した結果は、あくまで全国や京都市立学校全体の傾向です。これを受けて、それぞれの学校や家庭・地域において、子どもたちの学びと育ちに関わる大人たちが子どもたちの状況に即した取組を共に考え、行動を共有していくことが、子どもの力を伸ばしていくための大きなポイントとなってきます。子どもたちが夢と希望を持って未来を切り拓いていけるよう、豊かな学びと育ちのために、保護者、市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(本件に関する問い合わせ) 京都市教育委員会学校指導課 電話 (075) 222 - 3801
-------------------------------------------------------